

「主食の友」への支出

- 家計調査(二人以上の世帯)結果より -

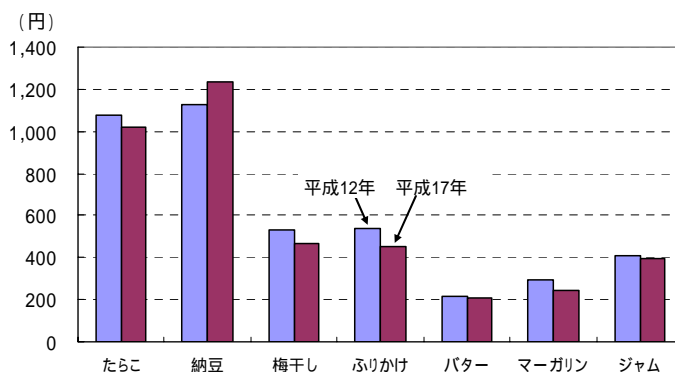
皆さんはご飯やパンをそのまま召し上がりますか？それとも何かと一緒にですか？今月は、ご飯やパンと共に食べられることが多い食品について家計調査(二人以上の世帯)の結果から見てみましょう。

ここでは「たらこ」、「納豆」、「梅干し」、「ふりかけ」の和食系4品目と「バター」、「マーガリン」、「ジャム」の洋食系3品目との合計7品目をまとめて「主食の友」と称します。

納豆はこの5年で増加

1人当たり1年間の支出金額についてみると、納豆やたらこへの支出が他に比べ多くなっています。また平成12年と17年を比べると、納豆は5年間で増加しましたが、他の品目は減少しました。(図1)

図1 1人当たりの各品目に対する年間支出金額



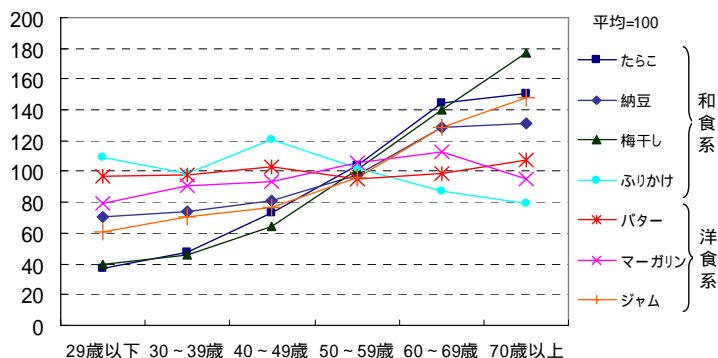
概して世帯主の年齢が高い世帯で多く購入

次に、1人当たり支出金額指数(平均を100とした指数)を世帯主の年齢階級別に見てみます。

和食系では、世帯主の年齢が高いほどより多く購入する傾向にあります。殊に梅干しはその傾向が顕著で、70歳以上の世帯は、29歳以下の世帯の4倍以上も購入しています。納豆とたらこも同様の傾向を示していますが、ふりかけは50歳台まではおおむね平均を上回り、60歳台以降で平均を下回っています。

洋食系では、バター、マーガリンは比較的年齢による差が少なくなっていますが、ジャムは和食系同様、世帯主の年齢が高い世帯でより多く購入しています。(図2)

図2 世帯主の年齢階級別1人当たりの支出金額指数(平成17年)



東北で納豆,九州でたらこが好まれている

最後に1人当たり支出金額を地域別に見てみます。特定の品目の割合が目立って大きかった地域は、納豆が1,616円で全体の40%を占めた東北地方と、たらこが1,520円で全体の37%を占めた九州地方でした。なお、沖縄地方は全体の金額が低い中で納豆と梅干しの割合が高く、健康志向がうかがえます。(図3)

図3 1人当たり地域別支出金額(平成17年)

